
正義の為に忠誠を

Kesuke

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

正義の為に忠誠を

【Nコード】

N7773Y

【作者名】

Kesuke

【あらすじ】

地球が一つの連合として統一され宇宙に植民を開始し、勢力を外へ外へと広げていた時代。

外縁部の星系へ向かう宇宙軍艦船の修理と補給の為に鋼材の採掘を主な収入源としていた小さな惑星で起こった暴動に対処する為に宇宙軍と地上軍が投入されることに・・・

ブローグ

宇宙軍降下部隊 シャトルステーション

「クソつたれ・・・これでまた半年間は母星とおさらばかよ・・・」
宇宙軍降下部隊第2小隊小隊長モーガン・スイフト少尉は荷物をまとめながら一人毒づいた。

「また半年間も艦の中？この基地の中ですら天国に見えるな・・・」
このまま放っておけば全員の準備が終わっても文句を言い続けていただろう彼に、一人の隊員が声をかけた。

「小隊長、そろそろ文句をいうのをやめないと他の隊員の気が滅入るかと・・・」

小隊員の中で最古参のタケシ・ナガノ軍曹が声をかけた時にはとつくのとうに隊員達は隊長の小言にうんざりしていた。

揚陸艦に乗り組み任務に備えるよう通達が所属大隊にきた時からこの小隊長はずっと文句を言い続けている

「俺はあと1カ月で軍を辞める予定だったんだぞ？艦に乗り込んだらどうやって辞めりゃいいんだ」

「中隊長に言うだけ言ってみたらどうです？無理だとは思いますが・・・」ナガノがそう言った直後、シャトルの搭乗ランプが光り搭乗を開始せよとのアナウンスが響いた。

スイフトは諦めたように一人笑うとナガノに向き直り言った。

「不幸ってのはいつも先手を打ってくるもんだな。牢獄行きのシャトルが出るってよ。さあ、全員に乗り込むよう伝えてくれ」

ナガノが返事をする前に彼はシャトルへと歩きだした

プロローグ（後書き）

結構小説書くの時間かかりますね・・・
楽しんでいただければ幸いです

惑星コース 執政官執務室

「国民の不満はかなりのところまで高まっています」

惑星地上軍副執政官のクリュチコフは現状を確認するように言うと、目の前に座る惑星執政官の思案顔を見つめた。

執政官が28年前に初めて就任する前からの友人同士だった2人は惑星の財政問題にも二人三脚で取り組んできた。

「このままでは国民の生活が維持できない、ここで取れるのは鉱物と食料だけだ。」

そう呟く執政官はこの数年で一気に老け込み、今では私と同一年とは全く思えない・・・

クリュチコフは親友の憔悴しきった顔を哀しみを湛えた目で見つめながらこうなつた経緯に思いを巡らせていた。

（元はといえば宇宙軍が鋼材の支払いを先延ばしにしている上に財政支援を拒否するだ？この星に恨みでもあるのか、でなければ余程政府も財政が逼迫しているか・・・）

「・・・チコフ」

自分を呼ぶ声に思考を中断されたクリュチコフははつとした顔で執政官の目を見返すと執政官は続けた

「地球へ直接向かう。お前はここに残って後を頼む」

クリュチコフは一度閉じた目をゆっくり開けると、ゆっくりと頷いた。

「分かりました。軍は暴動が起こった際はできるだけ鎮圧を避けさせ、現状が切羽詰まっていること伝えます。」

「軍は意思を持ってはいけないというが・・・今回は仕方ないだろう」

執政官は椅子から立ち上がると、親友と無言で頷きあった

惑星コース 都市東部 居住地区 少年ロイ

「最近どこも空気悪いね・・・」

年頃の女の子が隣を歩いている幼馴染に声をかけた。

「最近物はさっぱり入ってこないし、地球との話し合いも上手くいつてないみたいって近所のおじさんが話してたよ・・・。」

幼馴染の少年は手に持ったカバンをぶらぶらさせながら答えると、大きくため息をついて続ける。

「全部政府と宇宙軍のせいなんだってさ」少年がぶっきらぼうにそう答えると少女は俯き、「そう・・・」とだけ答えると黙ってしまった。

少女の両親を含んだ住人の一部は補給ステーションで働いており所属も宇宙軍扱いの為に物資や賃金においてこの情勢でもある程度融通が利いていたのだが、それが原因で大多数の住民の鉱区で働く人々からは反感を買っていたのだった。

少年は俯いてしまった少女を見て自分の口の軽さを後悔しつつあわてて言葉を取り繕う。

「別にユイのせいじゃないだろ！それに俺や親父は全然そんなこと思っていないし、思ってるのは一部の人だけだって！」

（一部どころか既に大多数の住民はそう思っているだろうな・・・）
と心の中で思いつつも励ますように言うと、ユイという少女はぱあっと明るい表情で答えた。

「ありがと、ケリー。」

「みんなが幸せになれるといいな、みんなが助け合えばいいなっと思うの、私とお兄ちゃんとケリーみたいだね」少女はそういつてケリーに笑いかけると彼女の家の前で手を振って別れを告げた。

「バイバイ、また明日ね！」

「ああ、また明日な」

ケリーは照れて赤くなった顔を背けながらそっけなく手を上げて返事をする。

（クソッ、恥ずかしい事言いやがって・・・）

心の中で悪態をつきながらも初恋の少女の言葉を繰り返し思い出しながら思った

（ユイを悲しませるわけにはいかないな）

「世界が平和でありますように・・・か、まあ、せめてあいつの周りだけでも・・・」

ケリーはそう呟くと、もう一度心の中で願った

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7773y/>

正義の為に忠誠を

2011年11月27日08時48分発行